

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成25年6月)

～現状判断、先行き判断ともに低下が止まらず～

- 景気ウォッチャー調査・6月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が3ヶ月連続で低下、先行き判断も4ヶ月連続の低下となった。
- 現状判断は、百貨店を中心に高額消費の好調が続いているほか、月中旬に気温が高めとなり、季節商材の売行きも概ね良かったものの、全体的に客の動きが鈍くなっているとの声が多い。株価や為替の不安定な動きが心理的な悪影響につながっている部分もあり、DIの低下が進んだとみられる。
- 先行き判断については、今夏は猛暑となることが予想され、季節商品への需要が高まるとの声がある一方、今後の株価、為替の推移に対する不透明感が高まりつつあるほか、参院選の結果次第との声も多い。また、諸物価の上昇に対する不安も高まっていることから、結果としてDIの低下につながったとみられる。
- 諸物価の上昇を懸念する声は、スーパーをはじめ、百貨店、コンビニ、ホテル、レストランなど、多くの業種から上がっている。一方、ボーナス支給額の増加による所得効果に期待する声も聞かれるものの、一部にとどまっている状況である。

①「値上げ」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	くや なや る良	コンビニ(広告担当)	・公共料金の値上げや物価の高騰などもあるが、アベノミクス効果で少しは良くなるように期待したい。
	変 わ ら な い	一般小売店[自転車](店長)	・仕入商品は徐々に値上がりしているが、客は少しでも安い物を選ぶ。状況はずっと変わらないため、まだまだ景気が上向くようには思えない。
		一般小売店[酒](社員)	・大阪地区に関しては、梅田地区、阿倍野地区での商業施設の開業というトピックスはあるが、その他地区の物販部門では景気の回復による売上の増加は見込めない。また、輸入関連では円安の影響が大きく、値上げが必須となるなど、厳しい環境が想定される。
		百貨店(売場主任)	・富裕層を中心に引き続き高額品の消費の伸びが期待できるものの、食料品やガス料金などの生活必需品の値上げや、収入の増加も部分的であることから、大きな景気の好転は期待できない。
		百貨店(営業担当)	・富裕層の中でも、下のランクの顧客も徐々に高額品を買うようになり、買うまでのスピードは遅いものの、そろそろ出てくる。値上げ前の駆け込み需要にも期待できる。
		スーパー(経営者)	・輸入関連商品の値上げ情報が入ってきている。景気動向に与える良い要素、悪い要素が交錯していて、どう動くのかが予測しにくい状況である。
		スーパー(経営者)	・周辺では残業が増えたという話や、賃金が増えそうだという話があまり聞かれず、商品の値上げが先行する。ただし、家庭内に在庫がある商品の価格転嫁は簡単には進まないと予想され、収益圧迫の懸念が高まっている。
		スーパー(広報担当)	・消費の傾向はしばらく変わらないと予想しているが、原料価格の値上げなどの懸念材料がある。
一般レストラン(経営者)	・生活食材の値上げなどで財布のひもが固くなり、外食の機会は少なくなる。		

家計動向関連	変わらない	都市型ホテル（スタッフ）	・宴会の先行予約は好調であるが、直近の宴会や会議は低価格化が進んでおり、収支が合わなくなっている。食堂も食材原価が軒並み値上がりしており、7月から部分値上げを試みるが、動向は不透明である。一方、宿泊は予約の間際化が顕著であり、先が読めない。
	やや悪くなる	スーパー（企画）	・原料高や円安の影響により、7月以降は目にみえる形で食品を中心に店頭価格の上昇が進む。月給やボーナスの増加が消費に回ればよいが、電気料金の値上げや金利の上昇といった生活に関する出費の増加懸念から、貯蓄に回る可能性がある。参議院選挙もあることで、政治や経済の先行きに対する不安感は依然として大きい。
		観光型旅館（経営者）	・公共料金の値上がりの影響が夏場には顕著に出るため、出控えや買い控えて景気が良くなることは期待できない。
	悪くなる	競輪場（職員）	・物価が上昇しているのに対し、賃金は増えていない。また、電気料金や生活必需品の値上がりもあるなど、アベノミクス効果には実感が無い。
企業動向関連	変わらない	食料品製造業（従業員）	・新製品の売上は良いが、既存品は良くない状況が続いている。既存品の売行きは販売価格に大きく左右されるが、一部で原材料の値上げもあるため、廉価販売ができない状況にあり、その辺りの影響も出ている。
		食料品製造業（経理担当）	・株価や円相場の乱高下が激しいことや、電気料金の値上げが大きく影響してくる。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・資材の値上がりで困っているが、一般的なムードが黒から明るい色に変わりつつあるため、相殺すると変わらない。
	やや悪くなる	繊維工業（総務担当）	・物の値上がりで販売価格に転嫁しにくいいため、収益が圧迫される。

②「ボーナス」関連のコメント（先行き判断）

家計動向関連	悪くなる	都市型ホテル（客室担当）	・夏休みの予約状況も好調で、前年比で40%増となっている。ボーナス支給時期も近づき、今後は本格的に夏の旅行の動きが出てくる。
	くやや良くなる	乗用車販売店（経営者）	・賞与などが前年よりも少し増えるようなので、個人消費に回ることを期待したい。
	変わらない	商店街（代表者）	・アベノミクスもあり期待が先行しているが、地元企業においては給料アップやボーナスの話があまり聞かれないなど、動きが悪い。
		百貨店（売場マネージャー）	・アベノミクスの行方を様子見している感が強い。ボーナスが増えた企業は一部にとどまり、世間一般も全体的に様子見となっている。
		スーパー（店長）	・輸入関連商品の価格上昇が、じわじわと押し寄せる。また、ボーナスも一部の大手企業を除いては良い状態になく、いったん上向いた購買意欲も減退する。また、来年の消費税の増税に向けて、消費者の商品に対する見極めは厳しくなるため、それに対応して販売方法をどの程度変えられるかが、企業ごとの好不調の境目になる。
		一般レストラン（経営者）	・賞与支給額も中小企業では改善されず、生活感としてはまだ楽観視できない状況にある。
	やや悪くなる	その他飲食 [コーヒーショップ]（店長）	・企業業績には先行きの不透明感が強く、賞与なども増えにくいいため、期待感はあるが財布のひもは固い。株高などで一部の高級品の販売量が伸びているとも聞くが、日常の喫茶需要にはその恩恵は感じられない。
		一般小売店 [花]（店）	・商売柄、6～8月は厳しいほか、ボーナスカットなどで今後はますます厳しくなる。
		スーパー（企画）	・原料高や円安の影響により、7月以降は目にみえる形で食品を中心に店頭価格の上昇が進む。月給やボーナスの増加が消費に回ればよいが、電気料金の値上げや金利の上昇といった生活に関する出費の増加懸念から、貯蓄に回る可能性がある。参議院選挙もあることで、政治や経済の先行きに対する不安感は依然として大きい。
	悪くなる	乗用車販売店（経営者）	・ボーナス月ということもあり、もう少し小売が伸びないといけないが、伸びていない。どちらかといえば、仕入業者の間だけで商品が回っているような状態で、出口がみえない。

